

令和2年6月8日 校長 高倉 満

予測困難な社会を生き抜く力を育成するために

□「新しい学力観」や「生きる力」という言葉が出されて、はや？年、今回の新学習指導要領においても継続されています。それは、30年近く経過しても、なかなか改革が進んでいないということでしょうか。私はそうは思いません。先生方の授業を見ても、一方的に知識を教え込むような授業（かつての自分を反省しながら）よりも、思考力・判断力・表現力を育む授業を展開するために、ICTを活用した協働学習やペア学習等、課題解決のためのやり方を考えさせたりする授業が増えてきました。もちろん、先生方の授業改善への努力をはじめ、校内研修の取組が充実してきていることも大きな要因だと思います。現在、教科用図書選定に向けた意見書作成をお願いしていますが、今回の新学習指導要領では長年、学校教育がその育成を目指してきた「生きる力」がより具体化されています。そして教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を次の三つの柱に整理しています。参考してください。

- ア 「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識・技能」の習得）」
- イ 「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成）」
- ウ 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）」

自ら課題を見つける力は、こんな場面でも・・・

○部活動においても、勝つことや勝つためだけでなく、「どんな部活にしたいか」「何のために部活をするのか」「部活を通してつけたい力は何か」をミーティングで考えさせたり、顧問の先生方の考えを発信したり、また具体的に部活の中での係や役割を作り、どんな活動にすべきか等を生徒に考えさせ、実行している部活もあります。

○生徒指導においても、大人の経験から「こうするべき」と価値観を押しつけるよりも、複数の先生が、関係する生徒の言葉を引き出し、否定せずに傾聴し、関係する生徒と共に方策を考え、さらに、クラスや学年の問題として取り上げ、集団としてどうあるべきかを考えさせる場面が見られます。

様々な場面で経験豊富である私たち教師の指示に従っていれば素早くでき、成功もするでしょう。でも指示を待つような生徒が増えれば、今回のコロナウイルスの経験を考えても、予測不可能なこの時代を生き抜くことは困難になるかもしれません。時間はかかっても生徒を信じ、任せて、そして一人一人の生徒の様子や変化を見つけ、成長を褒めて、指導、助言をしながら生徒に考えさせていきましょう。きっと浮羽中の生徒はさらに大きく変化すると思います。

□中体連大会は中止・3年生のために各専門部で交流試合を計画！

本来なら大会に向けて部活動の「目的」や「目標」は(〇〇〇)と決めて、最後の調整の練習試合や課題克服のための練習に全力に取り組んでいる時期です。しかし、今年は中体連としてのブロック大会は中止となりました。とても残念なことです。3年生には、安易に「頑張れ」という言葉もかけられません。3年生の気持ちを考えると、各顧問の先生方も辛いと思います。でも、ぜひ3年生が気持ちの区切りをつけて、次の進路に向けて進んでいけるように話をしてください。よろしくお願いします。

本当なら中体連ブロック大会に向けて残り1ヶ月を切り、ラストスパートの時です。ブロック大会は中止になりましたが、今まで、それぞれの部活動でドラマがあり、いろいろな問題や課題もあったと思います。生徒達と向き合い、話し合いながら解決してきたことも多かったことと思います。3年生は部活動に入学して2年。大きく成長した姿を見せてくれました。コロナウイルス感染症対策で「緊急事態宣言」が出され、3月2日から5月末まで練習ができませんでした。はがゆい思いをしていたと思います。不安で気持ちも揺れていたと思います。中体連大会は中止にはなりましたが、最後まで全力で練習に取り組む姿を、1年生や2年生に見せてほしいと思います。その姿が浮羽中の財産になります。

部活動で学んだことは、その後の「学校」という舞台上、または、これからの人生で必ず生かされると思います。そんな夢や思いを伝えられるのは顧問の先生方です。

どうぞ、ありったけの気持ちを生徒におつけて、締めくくってください。よろしくお願いします。